

## 2 道徳教育推進教師の取組

初めて道徳教育推進教師になりましたが、どんな取組をすればよいのでしょうか。また、先生方が協力して道徳教育を推進したり、家庭・地域と連携したりするためには、どんな働きかけをすればよいのでしょうか。

### 【ポイント】

- 道徳教育推進教師は校内における道徳教育を推進する上でのファシリテーターとなります。道徳教育推進教師に求められている役割を確認しましょう。
- 道徳教育全体計画や別葉の作成により、重点とする指導内容や子どもの意識の連続性を考慮した取組を明確にしましょう。
- 学校の道徳教育の重点目標や重点事項の共通理解を図り、育てたい子供たちの姿を具体的に捉えられるようにしましょう。
- 定期的な振り返りによる反省や改善点を集約し、見直しを行っていく中で、充実を図っていくようにしましょう。
- 教具や教材、設営や指導資料など、それぞれの先生方が工夫していることを、校内で共有できるようにしましょう。
- 家庭・地域へ学校の考えや取組みを発信していくと同時に、学校の道徳教育の取組に参加してもらう工夫をしましょう。

#### 1 道徳教育推進教師はファシリテーター

道徳教育の充実には、校長の明確な方針の下、学校の教育活動全体を通じて、個々の教師の責任ある実践が積み上げられることが重要である。学校が組織一体となって道徳教育を進めるためには、全教師が参画して取り組む体制を整えることが大切で、道徳教育推進教師はその舵取り役・ファシリテーターとなる。そのため、全体の様子を把握するとともに、分担・協力しながら、一人一人の教師が十分に力を発揮できるような支援・働きかけを行うことが大切である。

### 道徳教育推進教師

=

- チームリーダー
- コーディネーター
- マネージャー

#### 道徳教育推進教師の役割

- ア 道徳教育の指導計画の作成に関すること
  - イ 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
  - ウ 道徳の時間の充実と指導体制に関すること
  - エ 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
  - オ 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
  - カ 授業の公開など家庭や地域社会との連携に関すること
  - キ 道徳教育の研修の充実に関すること
  - ク 道徳教育における評価に関すること
- など

## 2 道徳教育の全体計画の作成について

校長の経営方針等を基に全体計画の作成を行うが、具体的な取組が充実するように別葉を作成するなど、全体計画推進のための工夫をするとともに、各学年の道徳教育の担当者等と分担するなど、協同して作成にあたることも大切である。

→ 「3 全体計画の別葉の作成」(参照)

## 3 道徳教育の重点目標や重点事項の共通理解の推進

### (1) 共通理解を図る場の設定

道徳教育は学校の教育活動全体で取り組むものであり、校長の方針の下、学校が組織一体となって道徳教育を進める必要がある。そのために、自分の学校の道徳教育の重点目標(育てたい子供の姿)や重点事項等について、年度始めに共通理解を図る場を設定し、全教師が参画する体制を具現化していくことが大切である。その設定例としては、次のような方法が考えられる。

- 校長が行う学校経営説明の中に位置付ける。
- 校内研修の中で校長の説明を位置付ける。

### (2) 指導に関する共通理解を図る資料等の提示

道徳の時間の基本的な学習過程や効果的な板書等について、年度始めに共通理解を図ることが大切である。

【基本的な学習過程についての提示例】

本校の一単位時間における基本的な学習の流れ		
導入 展開 深め まとめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【導入段階】</b> 子ども一人一人の意識を、ねらいの根底にある道徳的価値に向けて「動機付ける段階」</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>導入では、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主題に対する「興味や関心」を高める。</li> <li>・ ねらいにかかわる「問題意識」を高める。</li> <li>・ 学習についての「見通しやイメージ」をもたせる。</li> <li>・ 考えたい、話し合いたいという「意欲」を高める。</li> <li>・ 学習を進めるための「雰囲気」をつくる。</li> </ul> </div> <p>「できたとき」、「できなかったとき」の対比は問題意識を高めやすいが、ねらいや内容項目の特性や発達段階、資料の特性を踏まえて工夫する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【展開前段】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 資料における中心的な問題(中心的な発問)を考える。</li> <li>② 中心的な発問が生きるようにねらいに迫る基本的な発問をおく。</li> </ol> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>《中心的な発問》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 資料を通して、自己を見つめさせる一番の山場での中心発問               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苦しみや悩みを乗り越えてねらいとする価値が一番高まった箇所。</li> <li>・ 子どもの感動が一番盛り上がった箇所。</li> <li>・ 多様な考えを引き出せる箇所。</li> </ul> </li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>《基本的な発問》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 授業展開の要所要所で用意され、授業の節目として構成される基本発問               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心発問につなげるために確実に考えさせたい発問を精選する。</li> <li>・ 主人公を一つの手本・あこがれとしてとらえられるようにするとき。</li> <li>・ 自分の価値観を振り返らせるとき。 など</li> </ul> </li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>《補助的な発問》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 基本発問や中心発問を補ったり、別の視点で問い直したりする補助発問               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ある子どもの発言を広げたり、深く掘り下げたりするとき。 など</li> </ul> </li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【展開後段】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>③ 資料から離れて、自分自身の問題へとつなげ、考える発問や活動をおく。</li> </ol> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【終末】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>④ 話し合いをまとめ、今後につなげる終末の段階を考える。</li> </ol> </div>	※意図的指名に心掛けながら授業を進める
	伝えたい・学びたい	

【効果的な板書についての提示例】

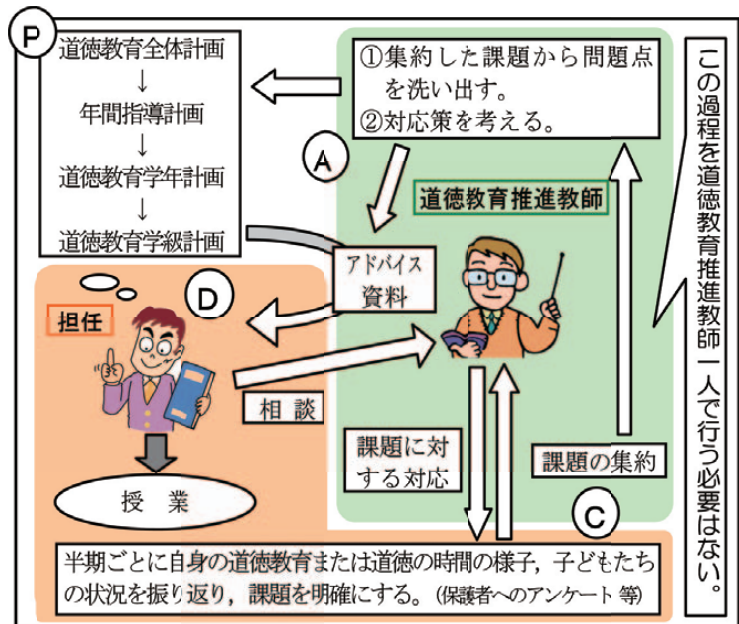
効果的板書	① 組み立てや流れが構造的な板書 ② 中心的なテーマが見える板書 ③ 考えが深まっていく板書 ④ 子どもと共に作る場が見える板書 ⑤ 視覚的に捉えやすい工夫のある板書	○ 上下や左右に対比的に見せる ○ 意見の違いを分類して書き出す ○ 子どもの参画（短冊のグルーピングなど） ○ 劇場の舞台のようなイメージ ○ 心情図や心情曲線で心の変化を見せる
-------	---	--

4 道徳教育の推進状況についての評価（C：チェック）・改善（A：アクション）

作成した全体計画や指導計画（P：プラン）が「絵にかいた餅」になっていないか、道徳教育の要となる道徳の時間の指導等に課題がないかなどを定期的に点検し、必要に応じて指導資料を準備したり、研修係と連携し、研修の機会をもつなどの対応・改善を進める必要がある。



【その月の各教科・領域等での道徳教育を掲示等で確認し合うことも大切です】



【図 道徳教育にかかわるPDCAの流れ（例）】

5 教材等の共有化と活用

教具や教材、設営や指導方法など、道徳の時間を充実させるために必要なものを整備していくことは道徳教育推進教師の仕事の一つであるが、一人で進めるのは大変である。他の教員と協力しながら整備する体制づくりに努める。

(1) 教具や教材の整備

年間35時間、すべて学級で何らかの教材や教具が作成・工夫されているはずである。その教材や教具を集約し、共有することで、各授業の充実が図られる。各学年部等で作成や収集を分担するのも一つの方法である。

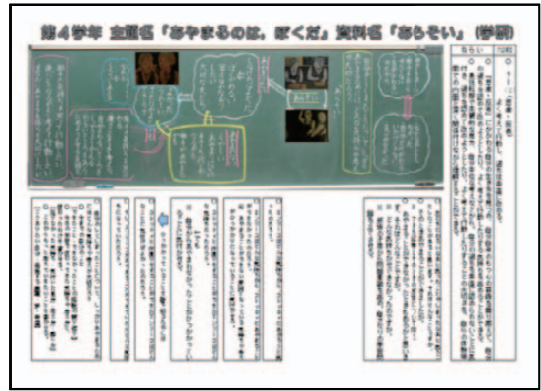
- 学年部会で指導の流れを共通理解し、次時の板書資料等を分担して作成
- 長期休業中を活用し、次の学期の板書資料等を分担して作成
- 共通の保管場所を決め、使用した資料やワークシート等を授業別に整理  
紙媒体等での保管はそのまますぐ活用できる利点がある。パソコン等での保管は必要に応じて修正して活用できる利点がある。



【図 教具・資料のストック棚の整備例】

(2) 設営や指導資料などの積極的な紹介  
 設営や指導資料などで参考となるものを積極的に紹介し、活用できるように働き掛ける。

指導資料とは、難しいものを作ることではなく、授業の板書を写真で撮ったものを提供し合うことも貴重な資料となる。また、提供された写真を取り入れながら授業展開を示し、指導資料として配布するなどの工夫も考えられる。



【図 板書の写真データを生かした指導資料例】



【図 道徳の時間の話し合い方を掲示した例】



【図 各学年の廊下に設置された道徳コーナー例】

(3) 「道徳だより」等の活用

重点目標や重点事項を踏まえながら、授業の進め方や授業での児童生徒の変容等について情報提供を行うことにより、共通理解が深まり、全校体制で道徳教育を充実させようとする意識を高めることにもつながる。機会を捉えてそれらの情報提供を行う「道徳だより」等を継続的に発行することも効果的な方法である。

【「道徳だより」の例】

**道徳通信** 第3号 平成26年7月11日 小学校道徳部

本誌大巻も終わり、いよいよ学期末準備の時期となりました。忙しい時期ではありますが、夏休みは必ずやってきますので、頑張ってくださいませ！

さて、前回は、授業作りの方についてお知らせしました。今年から「導入」「展開」「結末」の3面に分けて授業作りの方についてご紹介いたします。

今回は、**導入**です！

導入は、子どもたちが問題意識を高め、自分なりに解決したい課題を明確にもたせることが大切です。

そのためには、「このことは、自分の生活と深く関係しているな。」「このことが解決できれば、もっとよい生活ができるな。」という切実感をもたせる必要があります。

道徳の時間の目標の中にある「自己の生き方についての考えを深める」ためにも最も重要な過程であるといえます。

これまでの体験をもとにそのときの気持ちを思い出させる。

望ましい生き方の実践を促す心の呼びかけ

望ましい生き方の実践を支える処方・結び方・考え方

「矛盾」

「望ましい生き方」を追求する過程で、必ずしも「望ましい生き方」が実現できず、矛盾が生じることがあります。

一人一人自分なりに考えていきたい問題(切実感・必要感)

☆実際の導入や展開の導入で、どのようにして子どもたちに切実感や必要感をもたせるのか、実践例を紹介いたします。

「私たちの道徳」が手渡され

平成26年度4月、全国の小中学生に「私たちの道徳」が配布されました。

この副読本については、活用仕方等が文部科学省から具体的に示されているわけではありませんが、これまで活用してきた「心のノート」と同様な性格を持ち合わせていることは確かです。そこで、「心のノート」の性格を今一度ご確認ください。

**「心のノート」は宝物**

- 自分だけのノート(ノートに名前を付けよう。世界に一番のノート)
- みんな持っているノート(全国の小中学生に配られた。みんな知っている。)
- いつでも使えるノート(好きな時に自由に利用しよう。)
- いつでもあるノート(ランドセルに入れておきいつでも取り出そう。)
- いつまでも残るノート(心のアルバムとして持ち続けよう。)
- みんなで話せるノート(友だちや家族とも一緒に話せるよ。)
- 秘密のノート(正直な気持ちを表したい。プライバシーを守ることが重要。)
- 自分を育ててくれるノート(振り返ることで心の成長を知ることができる。)

**家庭・地域との共通理解・連携**

「私たちの道徳」は、家庭や地域との連携という点でも大きな役割を果たす可能性を秘めています。この点において、「私たちの道徳」の活用により期待できることは3点挙げられます。

- 教師が家庭や地域との連携に広がりを感じ始め、より意識して協力しようとする姿勢が生まれること。
- 家庭や地域の方が、道徳教育についての関心を高め、家庭や地域が学校と一体となって子どもを育てようという動きが活発となること。
- 子どもと保護者又は地域の方が一緒にこの本を手にとることにより、よく生きるという課題と一緒に考えることができるようになること。

**「心のノート」の性格を受け継ぐわたしたちの道徳の活用を探っていきましょう。**

**道徳通信 ともしび** 第3号 平成26年7月11日(金)発行 豊神中学校

今月は、15日(土)に行われた豊神中学校との交流学習に向けて、豊神に人との関わり方について考えました。人と関わる時にはどのようなことに気をつけなければならないか…みんな真剣に考えました。

【先生 加山】 他の人と関わる時に大切な気持ちや態度を尋ねる

**資料名** たつちんと呼ばれた日

**内容** 豊神をもつ「僕らの心」とのやり取りを通して、他の人への話し方や人を見つめる姿勢について考えました。

**他の人と関わる時に必要な気持ち(生徒意見)**

- 丁寧な気持ち ○思いやり ○言葉遣い ○相手の話をよく聞く

**感想** 普通の人は違うところがあるから、普通にはなれないと思った。「かわいそう」と思うだけではなく、例の手助けをする必要があると思った。特別扱いしないことが大切でした。

【先生 加山】 豊神をもつに同じく自分の気持ちや態度を尋ねる

**資料名** ひとのためにできること

**内容** 豊神に誘われての交流学習で、豊神をもつへの配慮や話し方について考えました。特別なことしようと思わずに、自分ができることを自分なりにやること大切だということ、山崎先生の気持ちの込められた授業でした。

**自分の立場に立つときの工夫と気持ち(生徒意見)**

- 工夫… ○ 仰ぐ大きな声で話す ○ 相手の話をよく聞く
- 気持ち… ○ 相手の立場に立つて考える ○ 豊神で、わたしができることを少しでも出したいと思える。人のためにできることをやっていきたい。

【先生 加山】 豊神1994年の心について考える

**資料** 豊神1994年の心について考える

**内容** 「豊神1994年の心」について、資料に載っている写真や動画を見て、豊神をもつにどう関わりたいか、自分ができることを自分なりにやること大切だということ、山崎先生の気持ちの込められた授業でした。

**自分の立場に立つときの工夫と気持ち(生徒意見)**

- 工夫… ○ 相手の話をよく聞く ○ 自分の話していることをよく聞く ○ 相手の話をよく聞く

～ 豊神校との交流学習で、みんな相手のことを思いやり行動で、豊神をもつに感謝して～